

ユーザーガイド



目次

目次3
AURACLE Xソフトウェア6
インストール6
メインメニュー7
Audio7
PlayAUDIOシリーズ Audioメニュー8
シーンの選択8
フェイルオーバー Arm/Disarm選択8
フェイルオーバーアラームとバックアップシーンセレクタのトリップ8
Outputs/Headphones共有設定9
Outputs Mode9
Headphones mode10
Failover Settings11
MIDI Learn (PlayAUDIO1U)13
MIDI ルーティング14
一般情報14
MIDIポートとチャンネル14
物理 MIDIポート14
バーチャルMIDIポート14
MIDIチャンネル15
MIDI ルーティングの手順16
Filter & Remap17
Input/Output17
Filter18
Remap18
Clear All18
Back ボタン18
Presets19
複数のプリセットを備えたインターフェースれのプリセットを備えたインターフェース
シングルプリセットのインターフェイス19
Backup / Restore
Backup20
Restore
RTP / Network MIDI21
RTP / Network MIDI メニュー21
USB Host Reservation23
USB Host の予約23
USB MIDIコントローラーとiConnectivityインターフェイスの注意事項24

25
26
26
26
26
26
26
27
28
28
29



製品の機能、仕様、およびシステム要件は変更される場合があります。

Mac、macOS、OS X、iOSは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AndroidはGoogle LLCの商標です。

iConnectivityはiKingdom Corp.の商標です。詳細は<u>iConnectivityの特許を</u>ご覧ください。

© iKingdom Corp.

AURACLE Xソフトウェア

https://www.iconnectivity.com/playaudio1u

インストール

Windowsユーザーの 方 は、 以 前 のiConnectivityドライバーをすべてアンインストールし、 <u>https://www.iconnectivity.com/windows-drivers</u>から最新のUnifiedドライバーを<u>ダウンロードしてからお進</u> <u>みください。</u>インストールを完了するには、管理者権限が必要です。

ウェブブラウザを開き、<u>https://www.iconnectivity.com/software/control-software</u> よりお使いのコンピュータ に適したオペレーション・システム(Windows または MacOS)を選択し、黄色の Auracle X リンクをクリックし てダウンロードし、画面の指示に従って完了します。

メインメニュー

Audio



ヘッドフォンモードのPlayAUDIO1Uのオーディオメニューページ

Audioページは、設定するデバイスに合わせてカスタマイズされます。これらのページには、全般的な項目と、接続しているオーディオ・インターフェイス固有の項目があります。

現 在 の 対 応 オーディオ・インターフェイスのラインナップは、AUDIO2+、AUDIO4+、AUDIO4c、 PlayAUDIO12、PlayAUDIO1U、MIDI2+、MIDI4+です。

オーディオ出 カとルーティングは、Audioページで以下のように操作できます:レベル、ミュート、ステレオ/モノ、ヘッドフォンミックス、パン、ソロ。

サンプルレート

オーディオ・ページの一番下(画面のサイズや解像度によってはスクロールダウンする必要があります)で、 AUDIOシリーズ・インターフェイスの録音サンプル・レートを44.1、48、88.2*、96KHz*の中から選択します。

*ノート:サンプリングレートを88.2または96KHzに変更すると、チャンネルが変更され、一部のモードが使用 できなくなることがあります。PlayAUDIO12ではサンプリングレートを変更した後、出力モードを選択する必 要があります。出力モードが選択されていない間は、PlayAUDIO12から音声は出力されません。 PlayAUDIOシリーズ Audioメニュー

PlayAUDIOシリーズ・インターフェイスは、2機種とも自動/手動フェイルオーバー機能、出力モードの選択、 オーディオ・ミキシングなどの設定メニューを備えています。

シーンの選択



有効化したいシーンを選択してください。シーン選択ボタンは、インターフェイス上で行われたシーン選択の変 更にもリアルタイムで反応します。

フェイルオーバー Arm/Disarm選択

Arm Failover **Disarm Failover** Disarmed

自動フェイルオーバーを有効にするには、Audio メニューページの下部にある Failover Settings メニュー項 目でフェイルオーバー信号を選択し、そのフェイルオーバー信号をアクティブにする必要があります。上記の ボタンをクリックすることで、自動フェイルオーバーを有効または無効にすることができます。

フェイルオーバー アラームとバックアップシーンセレクターのトリップ

 Failed Over
 Arm Failover
 Disarm Failover
 Clear Failover Alert

設定されたオーディオまたは MIDI タイムアウトしきい値を超えて、選択されたトリガーモードの中断が起こる と、Failover Arm / Disarm 選択メニューは赤い Failed Over ビジュアルアラームとフェイルオーバーアラート をクリアするボタンが表示されます。Clear Failover Alert ボタンをクリックすると、ビジュアルアラームは消え ますが、インターフェースはシーン A に切り替わりません。

Outputモード選択

Outputs Headphones

PlayAUDIO12とPlayAUDIO1Uは、TRS-デュアルTSケーブル(別売)を使用して、1/4" TRSヘッドフォン端 子をアンバランスオーディオ出力として使用することも、他の出力をモニターするためのミックス可能なヘッド フォン出力として使用することもできます。

Outputs	左右のヘッドフォン出力をディスクリート・オーディオ出力11と12 (PlayAUDIO12)または出力13と14(PlayAUDIO1U)として追加します。
Headphones	ヘッドフォン出力に送る各出力のレベルを調整する追加のミキシングページを呼び 出します。ヘッドフォンモードの詳細については、本マニュアルの <u>ヘッドフォンモード</u> <u>の</u> セクションをご参照ください。

Outputs/Headphones共有設定

Mute All	すべてのリア・アナログ出力をミュートしますが、ヘッドフォン出力はアクティブなままです。
Unmute All	全リア・アナログ出力のミュート解除
Max All Levels	リア・アナログ出力のレベルを最大限に変更

Outputs Mode

÷	Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1									1 🧿 😽			
Scene A	Scene B				Dis	armed 🛛 🗛	m Failover Disa	rm Failover				Out	puts Headphones
Output 1	Output 2	Output 3	Output 4	Output 5	Output 6	Output 7	Output 8	Output 9	Output 10	Output 11	Output 12	Output 13	Output 14
0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10	0 -5 -10
-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20	-20
-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30	-30
-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	-40	~40
-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50	-50
-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60	-60
0 dB	0 dв	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	O dB	0 dв	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dв	0 dB
Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute	Mute
		Sample Rate 44.1kHz		•	Failover Set	tings Mute a	All Unmute A	All Max All	Levels Add N	AIDI Learn N	IIDI Learn Settin	gs	

フェーダー	フェーダーを上下にドラッグするか、フェーダーの任意の箇所をクリックして出カレベ ルを調整します。
dBレベル インジケーター	出力レベルを調整するための値の変更
Mute	選択された出力チャンネルの信号をミュートまたはミュート解除します。

Headphones Mode



ヘッドフォンモードは、ヘッドフォン端子を独立したミックス可能なステレオモニター出力として使用します。

フェーダー	上下にドラッグするか、フェーダーの任意の場所をクリックして、オーディオ出カレベ ルを変更します。
dBインジケータ	オーディオ出力レベルを設定・表示するエディット・フィールド
Mute	選択された出力チャンネルの信号をミュートまたはミュート解除します。
Solo	ヘッドフォンミックスで選択された出力チャンネルをソロにします
Stereo	奇数と偶数の連続するペアをステレオに加算

具体的なオーディオページデータについては、<u>youtubeの</u>ビデオや<u>AUDIO4cの</u>ユーザーガイドをご覧ください。

Failover Settings

Failover Settings					\otimes
Failover Mode				MIDI Panic on	Failover
Dual Master	•			Clear Alarm o	n Arm
Trigger Mode				📕 Auto Arm	
Use Audio Tone	•			Auto Switch to	Scene A
Audio Trigger		Audio Channel		Audio Timeout	
Failover Signal	-	15	•	2	ms
MIDI Trigger		MIDI Channel		MIDI Timeout	
MIDI Recognized		1		100	ms

フェイルオーバー設定は、上記の標準的なデフォルト設定に設定されていますが、特定のリグの能力と許容範囲に基づいて設定する必要があります。

Failover Mode	Dual Masterを選択すると、PlayAUDIO1Uは両方のシーンで自動フェ イルオーバー信号を認識します。シーンAからシーンBへの自動フェイ ルオーバーのみを許可する場合は、Single Masterを選択してくださ い。
Trigger Mode	Audio Tone:ダウンロード可能なLifeSine VSTのようなトーン・ジェネ レーターを使用して、一定のトーンをバーチャル・オーディオ・チャンネルに ストリーミングします。 Audio Timeoutのしきい値を超えるトーンの中断は、自動フェイルオーバー をトリガーします。
	MIDI Stream:自動フェイルオーバー検出のためのフェイルオーバー信号 のストリームに、シンクやクロックのような一定の MIDI ストリームを使用し ます。 MIDI タイムアウトのスレッショルドを超える MIDI ストリームの中断 は、自動フェイルオーバーをトリガーします。
	Either : PlayAUDIO1Uは、Audio ToneまたはMIDI Streamが存在し、それぞれのAudioまたはMIDIタイムアウト値を超えていない限り、現在のアームドシーンに留まります。

Trigger Mode(続き)	Both:PlayAUDIO1Uは、オーディオトーンとMIDIストリームの両方がそ れぞれのAudioタイムアウトまたはMIDIタイムアウト値を超えて中断され ない限り、現在のアームされたシーンに留まります。
Audio Trigger	Host Connected:自動フェイルオーバーは、フェイルオーバーが解除さ れ、ホスト(USB DAWポートに接続されたデバイス)がインターフェースか ら取り外されたときにトリガーされます。 Failover Signal:自動フェイルオーバーは、フェイルオーバーが有効に なっているときに、Audio Channelメニューで選択したオーディオチャンネ ルのオーディオ信号が、Audio Timeoutのしきい値以上に途切れた場合 にトリガーされます。
Audio Channel	PlayAUDIO1Uがフェイルオーバートーンをリッスンする仮想オーディ オチャンネルを選択します。
Audio Time Out	自動フェイルオーバーのトーンタイムアウトしきい値を設定します。ここで最 小のタイムアウトしきい値をテストして、ハードウェア構成に適した値を見つ けます。これより以前の環境や非常に大規模なセッションでは、コンピュー ティングリソースのリミッティングに対応するために、より長いタイムアウト値 が必要になる場合があります。
MIDI Trigger	Host Connected:ホスト(USB DAWポートに接続されたデバイス)の プラグが抜かれたり、インターフェイスとの接続が切れたりすると、自動 フェイルオーバーがトリガーされます。
	MIDI Recognized:最初に、接続されたデバイスからUSB DAWポートの バーチャルMIDIポートにクロックやシンクのような一定のMIDI信号をルー ティングする必要があります。現在のシーンがアームされていて、MIDIタイ ムアウトしきい値以上のMIDIトラフィックの中断があった場合、自動フェイ ルオーバーがトリガーされます。
	Failover Signal:最初に、接続されたデバイスからクロックやシンクのよう な一定のMIDI信号をMIDIポートフィールドに列挙されたバーチャルMIDI ポートにルーティングする必要があります。自動フェイルオーバーは、現在 のシーンがアームされていて、MIDIポートフィールドで選択されたMIDIポー トでMIDIタイムアウトしきい値以上のMIDIトラフィックの中断があった場合 にトリガーされます。
MIDI Port	MIDI TriggerモードのFailover Signalを使用する場合、自動フェイルオー バーモニタリング用のバーチャルMIDIポートを設定します。
MIDI Timeout	自動フェイルオーバーのMIDIタイムアウトしきい値を設定します。

Т

٦

MIDI Learn (PlayAUDIO1U)

PlayAUDIO1U Auracle X メニューの Audio ページで、Toggle MIDI Learn Set ボタンを使用して MIDI Learn 機能をオンにし、CC メッセージを使用可能なパラメータにマッピングします。



- 1. CCメッセージを送ることができるMIDIコントローラーをPlayAUDIO1UのUSB HOSTポートに接続します。
- 2. Auracle XのPlayAUDIO1Uのオーディオページに移動します。
- 3. Toggle MIDI Learn Set ボタンをクリックすると、マッピング可能なパラメータの輪郭が表示されます。 MIDI CC マップ可能なフィールドは青でアウトライン化されます。
- 4. MIDI マップしたいオブジェクトのフィールドをクリックします。オブジェクトがゆっくりと青く光ります。
- 5. 上のステップでオブジェクトフィールドにマッピングしたい MIDI コントローラのノブまたはフェーダー を、そのオブジェクトのフィールドが青くハイライトされるまで操作します。



6.MIDI Learnをオフにして通常のオペレーションに戻るには、再度 Toggle MIDI Learn Set をクリックします。

一般情報

iConnectivityのインターフェースによってMIDIポートの種類と数は異なりますが、Auracle Xソフトウェアの MIDIルーティングページを使って設定することができます。MIDIポートのsourcesとdestinationsの数とタイプ は使用するインターフェースのタイプによって異なりますが、すべてのMIDIポートには独自の16のMIDIチャ ンネル(1-16)が含まれています。これらを使用して、他のどのポートともSysEx/MIDIデータを送受信すること ができます。

MIDIポートとチャンネル

iConnectivityエコシステムのMIDI 情報は、フィジカル・ポート、バーチャル・ポート、チャンネルの3つのレイヤーに分かれています。

物理 MIDIポート

デバイスに含まれる4種類の物理ポートを以下に示します:

DIN MIDI ポート	クラシックな5ピンMIDI DINポート
USB Host ポート	USB MIDIコントローラーを接続するために使用するUSB Aポート
USB DAW ポート	USB BまたはUSB Cポート:PCやタブレットなどのUSBデバイス接続に使用します。
RTP MIDI ポート	CAT5eイーサネットケーブル接続用RJ45ポート

バーチャルMIDIポート

バーチャル MIDI ポートは物理 MIDI ポートを論理的に分離したもので、USB Host、USB DAW、および RTP MIDI 物理ポートに存在します。

DIN MIDIはデジタル・プロトコルではなく、バーチャル・ポートをサポートしていないため、Auracle XソフトウェアのDIN MIDIヘッダーの下にあるすべてのポート・ラベルは、物理ポートを指します。

USB Host、USB DAW、RTP MIDI ポートは、複数のバーチャル MIDI ポートをカプセル化した単一の物理 ポートです。以下の例は物理的な RTP MIDI ポートのルーティングメニューです。物理的 RTP ポートはグ レーの RTP MIDI ヘッダーと白の RJ45 アイコンで示されます。RTP MIDI の下にはバーチャル RTP MIDI ポートが白で表示され、バーチャルポート名と、それぞれのバーチャルポート名をカスタマイズするためのク リック可能な鉛筆のアイコンがあります。

RTP MIDI	
RTP 1	î
RTP 2	ľ
RTP 3	ľ
RTP 4	Ĩ

各仮想RTPポートは、RTPネットワークセッションを介して、他のRTP対応 iConnectivityインターフェース、コンピュータ、またはタブレット&スマート フォンに接続できます。一部のPC、タブレット、スマートフォンに接続するに は、特別なアダプタが必要な場合があります。

物理的なUSBホストポートとUSB DAWポートには、それぞれの物理ポート ごとに複数の仮想ポートがあります。

Auracle X ユーザーガイド v2023-0003

下の画像はmioXM MIDIルーティングページで、16のバーチャルポートが物理的なUSB DAW ポート内にカ プセル化され、8つのバーチャル・ホストポートが物理的なUSB Host ポート上にあります。オーディオ・イン ターフェイスやMIDIインターフェイスのUSB Host ポートにアクセスするには、別途パワードUSBハブが必要 です。

÷			Auracle for X-Series mioXM F01 Preset 1						0	? 🛸
Input	Output								Send to All	Clear All
	💭 DIN MIDI		USB Host		USB DAW		RTP MIDI			
	DIN 1	1	HST 1	î	DIN 1	ľ	RTP 1	1	Preset Selector	1
	DIN 2	ľ	HST 2	ľ	DIN 2	ľ	RTP 2	ľ		
	DIN 3	n	HST 3	ľ	DIN 3	ľ	RTP 3	I		
USB Host	DIN 4	ľ	HST 4	ľ	DIN 4	ľ	RTP 4	ľ		
HST 1			HST 5	ľ	HST 1	ľ	RTP 5	I.		
HST 2			HST 6	ľ	HST 2	ľ	RTP 6	1		
HST 3			HST 7	î	HST 3	ľ	RTP 7	1		
HST 4			HST 8	ľ	HST 4	ľ	RTP 8	ľ		
HST 5					HST 5	ľ	RTP 9	ľ		
HST 6					HST 6	ľ	RTP 10	ľ		
HST 7					HST 7	ľ	RTP 11	ľ		
HST 8					HST 8	ľ	RTP 12	ľ		
∧ □ USB DAW					Preset Selector	ľ				
DIN 1					RSV 1	ľ				
DIN 2					RSV 2	ľ				
DIN 3					RSV 3	ľ				
DIN 4										
HST 1										
HST 2										
HST 3										
HST 4										
HET E										

MIDIチャンネル

MIDI 情報はさらに MIDI チャンネルで分けられます。MIDI チャンネルによる MIDI 情報の分離は、同じバー チャル MIDI ポートを使用する際に、別々の送信先を意図した MIDI を互いに分離しておくのに便利です。 MIDI チャンネルの分離は、デバイスの MIDI メニューから MIDI チャンネルを割り当てるか、本マニュアルで 後述する MIDI リマップ機能を使用して行うことができます。 MIDI ルーティングの手順

MIDI Routing ページに移動します。ページの左側、Input 列でルーティングしたいフィジカルポート(DIN MIDI)またはバーチャルポートを選択します。入力ポートが青くハイライトされ、右側の出力フィールドに選択したソースポートで利用可能なすべてのルーティング先が表示されます。 選択した MIDI 入力をルーティングしたい出力ポートを選択します。

インターフェイスにもよりますが、ほとんどのMIDI入力は、最初の接続時またはファクトリーリセット時に1つの MIDI出力にルーティングされます。デバイス間のMIDIパスを完成させるには、DAWでMIDIをルーティングし 続ける必要があることを覚えておいてください。

÷		Aur mioX	acle for X-Series M D05 Preset 1) 🕐 🍣
	Output						Send to All	Clear All
DIN 1	😡 din Midi		USB Host		USB DAW		RTP MIDI	
DIN 2	DIN 1	1	HST 1	ı	DIN 1	î	RTP 1	î
DIN 3	DIN 2	î	HST 2	ľ	DIN 2	î	RTP 2	ľ
DIN 4	DIN 3	ľ	HST 3	ľ	DIN 3	î	RTP 3	ľ
USB Host	DIN 4	1	HST 4	1	DIN 4	î	RTP 4	ľ
HST 1			HST 5	1	HST 1	î	RTP 5	ľ
HST 2			HST 6	1.	HST 2	1	RTP 6	1
HST 3			HST 7	ľ	HST 3	ľ	RTP 7	ľ
HST 4			HST 8	ľ	HST 4	ľ	RTP 8	1
HST 5					HST 5	ľ	RTP 9	1
HST 6					HST 6	ľ	RTP 10	ľ
HST 7					HST 7	ľ	RTP 11	ľ
HST 8					HST 8	ľ	RTP 12	1
∧ □ USB DAW					Automation Control	ľ		
DIN 1					RSV 1	î		
DIN 2					RSV 2	n		
DIN 3					R5V 3	î		
DIN 4								
HST 1								
HST 2								
HST 3								
HST 4								
HST 5								

USBホストからのmiOXMルーティング:HST 1からDIN MIDIへ:DIN 1

また、MIDI入出カポートの名前を、使用するケースに応じて、より意味のある名前に変更することもできます。

MIDIポートの名前を変更するには、鉛筆のアイコンをクリックし、名前フィールドにオリジナルのポート名を 入力し、完了したら保存をクリックします。

Filter & Remap

÷		Pla	Auracle for X-Series yAUDIO1U 002 Preset 1		(i) @ 💸 [•]
Input	Output Filt	er i			Clear All
DIN USB Host	Channe Of Note Of Note Of	nel Filter CH 1 2		10 11 12 13 14 15 16 All	
HST 1 HST 2	Poly Kej Control	Change			
HST 3 HST 4 HST 5	Program Channe Pitch Be	Change Pressure			
HST 6 HST 7	All Filter	n Filter			
HST 8	Ti Si Si	ning Clock PP ng Select	Start Time Code Quarter Frame Tune Request	Continue Song Position Pointer	
HST 2	R	set	Sysex	Anno Scioling	

各 MIDI ポートはチャンネルやデータタイプ(ノート、コントロールチェンジ、ピッチベンドなど)に応じてリマップ やフィルターを設定することができます。MIDI Routingページと同様に、FilterとRemapオプションを左の フィールドに入力するためには、まずInputポートを選択する必要があります。出力ポートでMIDIデータをフィ ルターまたはリマップするために、入力の右側に出力も選択可能であることにご留意ください。

iConnectivityデバイスのフィルター&リマップセクションの使い方を<u>ビデオで</u>ご紹介しています。

Input/Output

インターフェイスへの入力を変更するか、インターフェイスからの出力を変更するかを選択します。表示される 名称は、インターフェイスの視点からのものです。

Filter

左の列で適切なポートを選択し、希望する MIDI チャンネル(列)とデータ タイプ(行)の交点でクリック可能な 四角をクリックして、ポー トとチャンネルごとに MIDI データタイプを無効にします。

MIDI データタイプの全チャンネル(例えば、全ノート On/Off メッセージ)をフィルターするには、クリック可能な四角形のグリッドの一番右にある All と記された列のクリック可能な四角形を選択します。

Remap

÷			Auracle for X-Se PlayAUDIO1U 002	ries Preset 1	(i) (i) 🐔	•
	Output		Remap		Clear	All
DIN USB Host	1	Channel Remap Note Off Note On	CH 1 2 3 4 5 6 7			
HST 1		Poly Key Control Change Program Change	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16			
HST 3 HST 4		Channel Pressure Pitch Bend	Clear			
HST 6 HST 7						
HST 8						
HST 1						
HST 3						
RTP 6						

リマッピングでは、送受信されるMIDIメッセージを選択した別のMIDIチャンネルにリマッピングすることで、 ポートやチャンネルごとにMIDI情報のチャンネルパスを変更することができます。

iConnectivity インターフェースの MIDI 入力に入る MIDI 情報を再マッピングする:

- 1. Inputメニューを選択します。
- 2. リマップする入力 MIDI ポートを選択します。
- 3. Remap フィールドで、リマップする必要のあるデータタイプをクリックします。メニューが表示され、選択した MIDI データ タイプをリマップする MIDI チャンネルを選択できます。必要なだけ MIDI データ タイプとチャンネルを繰り返すことができます。

iConnectivity インターフェースの MIDI 出力から出る MIDI 情報を再マッピングする:

- 4. Outputメニューを選択します。
- 5. リマップする出力 MIDI ポートを選択します。
- Remap フィールドで、リマップする必要のあるデータタイプをクリックします。メニューが表示され、選択した MIDI データ タイプをリマップする MIDI チャンネルを選択できます。必要なだけ MIDI データタイプとチャンネルを繰り返すことができます。

Clear All

現在の設定を全てクリアします。

Backボタン

選択してメインメニューに戻ります。

Presets

複数のプリセットを備えたインターフェース

Presets ~Save/Load
Save/Load
Currently Loaded: (1) Preset 1
Save Preset As 👻
Load Preset 👻

お使いのインターフェイスが複数のプリセットの保存とロードをサ ポートしている場合、現在の設定を複数あるプリセットスロットの1 つに保存するか、すべてのプリセットにわたって1つの設定を保存 するかのオプションが表示されます。

プリセットへの保存は、Save Preset Asドロップダウンメニュー をクリックし、プリセットスロットを選択するだけです。プリセットに カスタム名を付けるオプションが表示されますので、「Save」をク リックして設定をメモリに保存するか、「キャンセル」をクリックし て保存を中止します。

プリセットをロードするには、プリセットのLoadドロップダウンボタ ンをクリックし、ロードしたいプリセットを選択します。

シングルプリセットのインターフェイス



インターフェイスが1つのプリセットしかサポートしていない場合、 Auracle Xのプリセットページには、現在の設定をメモリに保存す るか、最後に保存した設定をメモリにロードするかの2つのオプ ションしかありません。

このページは、ご覧になっているインターフェースによって異なっ て見えるかもしれません。以下の記事では、すべてのデバイスの さまざまなタイプのメモリー/プリセットのオプションをご覧いただけ ます。お使いのハードウェアがどのようにメモリをセーブ/ロードす るかについて、詳しくはこちらの記事をご覧ください。 ハードウェアとソフトウェアの保存方法

PlayAUDIO12での保存に関するノート: PlayAUDIO12でプリセットを保存する唯一の方法 は、本体のフロントパネルにあるロータリーエンコーダーをタップすることです。すべての キャップタッチボタンが琥珀色に点滅し、プリセットレベルの設定が保存されたことを示しま す。

Backup / Restore

バックアップとリストア機能により、1つまたはすべてのプリセットをファイルにバックアップしてアーカ イブすることができます。

Backup

- 1. インターフェイスをコンピュータに接続したまま、プリセットを保存したいデバイスの Presets ページに 移動します。
- 2. 「Backup Interface Presets to File」ボタンをクリックします。
- 3. システムのファイルマネージャでファイルのパスと名前を選択し、Saveをクリックします。

Restore

- インターフェイスをコンピュータに接続したまま、プリセットを復元したいデバイスのプリセットページに 移動します。
- 2. 「Restore Interface Presets From File」ボタンをクリックします。
- 3. システムのファイルマネージャからプリセットファイルを選択し、「Open」をクリックします。

ノート:プリセットを復元すると、ファイルから保存されたプリセットが保存元のプリセットスロットに復元されます。Load Presetオプションを使用して、プリセットをロードする必要があります。

RTP / Network MIDI

RTP / Network MIDIは、MIDI情報がRTP対応のiConnectivity MIDIインターフェースやコンピュータなどを 長距離接続する必要がある環境に最適で便利なソリューションです。

÷		Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1	i) 🕐 🌾
IP Settings Set as Static IP: 0.0.0	Subnet: 0.0.0.0	Gateway: 0.0.0.0 Save	
RTP 1 Responder \$	Save	Bonjour Name:	Port: 5004
RTP 2 Responder 🕈	Save	Bonjour Name:	Port: 5006
RTP 3 Responder \$	Save	Bonjour Name:	Port: 5008

コンピュータネットワークの知識があると便利ですが、RTP MIDIネットワークの構築と維持に絶対必要というわけではありません。

RTPネットワークのセットアップ手順については、こちらのビデオをご覧ください。

RTP / Network MIDI メニュー

÷	Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1	i) 🕐 🌾
IP Settings		
Set as Static	IP: 169.254.94.158 Subnet: 255.255.0.0 Gateway: 0.0.0.0 Save	

IP設定	
Set as Static	クリックして、インターフェイスに IP アドレスを手動で割り当てます。
IP	Set as Static が選択されている場合はカスタム IP アドレスを入力し、Set as Static が 選択されていない場合はインターフェイスの IP アドレスを表示します。
Subnet	Set as Staticが選択されている場合はカスタムサブネットを入力し、Set as Staticが選択されている場合はカスタムサブネットを表示します。
Subnet	Set as Static が選択されている場合は、カスタムゲートウェイアドレスを入力し、Set as Static が選択されていない場合は、インターフェースのゲートウェイを表示します。
Save	クリックして現在の IP 設定を保存します。編集した値を「Static, IP, Subnet, Gateway」 に適用するには、構成しているインターフェイスに接続されているイーサネット ケーブル を取り外して再挿入する必要があります。

÷	Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1	i) 🕐 🍣
IP Settings		
Set as Static	IP: 169.254.94.158 Subnet: 255.255.0.0 Gateway: 0.0.0.0 Save	
RTP / Network MIDI		
🖉 🧨 RTP 1 Initiator 💠	IP Name 10.10.10.102 5004 Save 10.10.10.102 : 5004 (Macbook 01)	
	PA1U-02 Save Bonjour Name: PA1U-02	Port: 5006

RTP / Network MID	RTP / Network MIDI					
Session active ボタン	セッションを設定できるようにするには青をクリックし、無効にするには灰色を クリックします。					
鉛筆アイコン	クリックしてバーチャル MIDI ポートの名称を編集します。					
RTPバーチャル ポートラベル	仮想 RTP セッション名を表示します。					

Initiator / Responde	Initiator / Responder				
Initiator	仮想RTPポートがRTPセッションを開始できるようにするには、Initiatorを選択し ます。RTP セッションには、必ずイニシエータとレスポンダが 1 つ必要です。				
IP	IP アドレスを使用して接続する場合は、応答する RTP セッションのアドレスを入 カします。				
Port	IP アドレスを使用して接続する場合の応答側 RTP セッションのポートを入力 します。				
Name欄	Name を使用して接続する場合の応答側 RTP セッションのボンジュール名を 入力します。				
Responder	Responder を選択すると、仮想 RTP ポートが Initiator のリクエストに開放されます。				
Bonjour名	このフィールドにRTPセッションのBonjour名を入力します。				

USB Host Reservation

USB Host Reservationは、特に複数のUSB MIDIコントローラーを使用する場合に、USB MIDIコントロー ラーをインターフェイスに接続する際に、常に同じ仮想USBホスト・ポートに接続するための便利なツールで す。

÷		Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1		<u>()</u> 🔅 🔅
USB Host Rese	ervation			
Port Name	Connection Status	Port Reservation		
MIDI Fighter	DJ Tech Tools Midi Fighter Twister (Port 1)	DJ Tech Tools Midi Fighter Twister (Port 1)	.	
/ HST 2	Not Connected	None	•	
/ HST 3	Not Connected	None	•	
/ HST 4	Not Connected	None	•	
/* HST 5	Not Connected	None	•	
/ HST 6	Not Connected	None	•	
/ HST 7	Not Connected	None	•	
A HST 8	Not Connected	None	•	
HST 4 HST 5 HST 6 HST 7 HST 8	Not Connected Not Connected Not Connected Not Connected	None None None None None	• • • •	

USB Host Reservation メニュー

鉛筆アイコン	クリックするとバーチャルホストポート名を編集できます。
Port Name	バーチャル MIDI ポートの名前。
Connection Status	USBホストデバイスに接続されていない場合は、"Not Connected "と表示します。
Port Reservation	現在予約されているUSBホストデバイスを表示し、予約されていない場合は "non "と表示します。

USB Host の予約

- クラス準拠のUSBホストデバイスを接続した状態で、Auracle Xソフトウェアを開き、USB Host Reservation ページに移動します。
- 2. 予約したいUSBホストポートを選択し、同じUSBホストポートのドロップダウンメニューから、接続した デバイスのデバイスIDを探します。
- 3. Presets ページに移動し、プラグを抜くか電源を切る前に設定を保存してください。

USB MIDIコントローラーとiConnectivityインターフェイスの注意事項

- iConnectivityインターフェースは、USB MIDIコントローラーを専用のUSB Host ポート経由で接続することができます。USB-A MIDIホスト・ポートには2つの主要なガイドラインがあります:
- 1. USB Host デバイスはUSBクラスに準拠している必要があります。
- 2. USB Host ポートはSysEx/MIDIデータのみを通過させます。
- USB Host ポートを持つ各iConnectivityインターフェースには、接続されたUSB MIDIデバイスによる 消費電力と、使用可能なバーチャルMIDIポートの数に関する制限があります。
- USB Host ポートで使用可能な個々の電源および累積電源については、各インターフェースのマニュ アルを参照してください。
- お使いのデバイスがインターフェイスの電源仕様に従って利用可能な以上の電力を必要とする場合、
 外部電源で USB MIDI デバイスに電力を供給する必要があります。
- こうした方法で複数の MIDI デバイスを使用する場合、USB Host Reservationメニューを使用して MIDI デバイスに固定ホストポートを割り当て、電源の再投入や USB ホストデバイスの抜き差しを 行ってもホストポートの割り当てが保持されるようにしてください。
- パワードUSBハブを Host ポートに接続してコントローラを追加することができますが、各インターフェイスのリミットは変わりません。
- 以下のインターフェースでは、最大8つのコントローラに対応しています: PlauAUDIO1U、 PlayAUDIO12、AUDIO4+、AUDIO4c、MIDI4+、mio4、mioXM
- mio10、mioXLでは、最大10台のコントローラをサポートします。

Control Ports

÷	← Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1						
Control Ports							
Enabled	Status	Port Name	Switch Type	Trigger Type	Invert		
	Not Active	Jack 1 (Ring)	Input Output	Momentary Tog	gle	Actions	
	Not Active	Jack 1 (Tip)	Input Output	Momentary Tog	gle	Actions	
	Not Active	Jack 2 (Ring)	Input Output	Momentary Tog	gle	Actions	
	Not Active	Jack 2 (Tip	Input Output	Momentary Tog	gle	Actions	

PlayAUDIO1UとPlayAUDIO12は1/4 " Control ポートを装備しています。

PlayAUDIO12のControlポートにはInとOutのマークがあり、1/4" TRSケーブルで接続することで、複数の PlayAUDIO12をデイジーチェーン接続し、複数のデバイスを同時にフェイルオーバー切替することができま す。PlayAUDIO12にはControlポートのメニューページはありません。2台のPlayAUDIO12間で同期フェイル オーバーをアクティベートするには、プライマリーのPlayAUDIO12のOutポートとセカンダリーの PlayAUDIO12のInポートを1/4インチTRSケーブルで接続します。

PlayAUDIO12のControl Inポートは、Boss FS-6などのフットスイッチを使用して、シーンAとBを切り替えることも可能です。PlayAUDIO12のIn ControlポートとBoss FS-6の "A & B "ポートを1/4インチTRSケーブルで 接続し、アクティブなシーンをマニュアルで切り替えます。

PlayAUDIO1UのControlポートは、MIDI ccやプログラムチェンジメッセージを送ったり、以下のようなフェイルオーバー機能を実行するように設定することができます。

Enabled	割り当てられたコントロールポートを有効にします。
Status	有効ステータスに関係なく、接続された互換性のあるコントロールスイッチが作動 すると緑色に点灯します。
Port Name	ジャックと番号、タイプ(ティップまたはリング)でコントロールスイッチを識別します。
Switch Type	inputまたはOutputを選択します。Inputはスイッチの作動を受け取り、Output は選択されたコントロールアクションを送ります。
Trigger Type	モメンタリーとトグルの切り替えを選択します。
Invert	コントロールスイッチの極性を反転させます。
Actions	下記の <u>コントロールポートアクションページを</u> 参照してください。

PlayAUDIO 1U Control Ports メニュー項目

Control Port Action ページ

Device Settings Changes

Failover Arm State ドロップダウンメニュー:

No Action	フェイルオーバーアームのステータスのアクションは行われません。
Arm	自動フェイルオーバー検出が解除され、MIDIまたはオーディオ信号の検出条件が 満たされた場合、自動フェイルオーバー検出を作動させます。
Disarm	自動フェイルオーバー検出が有効で、MIDIまたはオーディオ信号の検出条件が満 たされた場合、自動フェイルオーバー検出を解除します。
Toggle	MIDI またはオーディオ信号の条件が満たされた場合、自動フェイルオーバー検出 を武装と武装解除の間で切り替えます。

Preset Load Mode

No Action	コントロールスイッチを有効にしても、プリセットには影響しません。
Select	プリセット番号ドロップダウンメニューで選択されたプリセットが呼び出されます。

Preset Number

Preset Load Modeがオンで、コントロールが有効化されているときに呼び出すプリセットをPreset 1~16の間で選択します。

Scene Change Mode

No Action	コントロールスイッチを有効化しても、シーン選択には影響しません。
Toggle	コントロールを有効化すると、シーンAとシーンBが切り替わります。スイッチの極性によって、トグル動作はコントロールを受けた時か、リリースされた時に開始されます。

MIDI Message Actions

Midi Message Actions							
Send to [Jack A] HST 1	•	Channel 1	•	_{Message} Program Change	•	CC or PC Number 0	-
Send to No Action	•	Channel 1	•	_{Message} Control Change	•	CC or PC Number O	•
Send to No Action	•	Channel 1	•	_{Message} Control Change	•	CC or PC Number O	•
Send to No Action	•	Channel 1	•	Message Control Change	•	CC or PC Number O	•

フェイルオーバー・アーム、プリセット、シーン・チェンジ・メッセージに加え、PlayAUDIO1Uのコントロール・ ポートは、有効化するとMIDIコントロール・チェンジまたはプログラム・チェンジ・ナンバーを送るように設定で きます。

Send to	コントロールの有効時に MIDI メッセージを送るポートを選択します。
Channel	MIDIメッセージのアクションチャンネルを選択します:1-16.
Message	送るメッセージのタイプとして、コントロールチェンジまたはプログラムチェンジを選択します。
CC or PC Number	コントロール変更またはプログラム変更の番号0~127を選択します。

Firmware

÷	Auracle for X-Series PlayAUDIO1U 002 Preset 1	(i) (i) 🦃
Firmware		
Current Firmware Version:	1.0.2	
Load From File	Choose File	
Load Latest From Web: PlayAudio1U 1.0.2	Install	

Firmware メニューを使用して、インターフェイスのファームウェアのバージョンをチェック、更新、またはロールバックします。

Firmwareの更新

- Auracle Xソフトウェアを搭載したコンピュータをiConnectivityインターフェースのUSB DAWポートに 接続します。ファームウェアアップデートのために間違ったポートに接続すると、使用する正しいUSB DAWポートを知らせるポップアップが表示されます。
- 2. インターネットに接続し、当社ウェブサイトから最新のファームウェアアップデートをダ ウンロードするか、または以下のいずれかを行ってください。
- 3. Choose File(ファイルを選択)をクリックして、コンピュータのファイルシステムからファームウェアファ イルを選択します。

または、直接ウェブブラウザを起動して <u>https://iconnectivity.com/firmware</u>に移動し、最新のファームウェア をコンピュータにダウンロードするインターフェースを選択します。ダウンロードした場所(通常はダウンロード フォルダ)を確認し、AuracleXのFirmwareメニューページに戻り、ChooseFileを選択し、ダウンロードした ファームウェアファイルに移動し、プロンプトに従ってファームウェアをインストールしてください。

付録A:その他のリソース

iConnectivityのウェブサイトとiConnectivityナレッジ・ベースには、役立つ記事やチュートリアル、説明ビデオが豊富に含まれています。便宜上、これらのシステムへのハイパーリンクを以下に示します:

iConnectivityナレッジベースのメインページは、iConnectivityサポートウェブサイトにあります。ウェブサ

イトのWindowsドライバのページから最新の統合Windowsドライバをダウンロードしてください。

ウェブサイトのAuracle XページからAuracle Xソフトウェアをダウンロードしてください。ファームウェアの

ページから最新のファームウェアをダウンロードしてください。

MIDIプロトコルについては、ナレッジベースのMIDI接続入門のページで説明しています。

本マニュアルはConnectivity社の正規国内代理店である株式会社メディア・インテグレーションが翻訳、 作成をしています。無断転載、改変、配布はご遠慮ください。 iConnectivity製品ページ:<u>https://www.minet.jp/brand/iconnectivity/top/</u> サポート情報:<u>https://support.minet.jp/portal/ja/home</u>